

フランスの絵本における 非人称構文について

田 中 善 英

1. はじめに

フランス語には、指示対象を持たない代名詞 *il* を文法上の主語とした非人称構文と呼ばれる構文がある。その存在意義については多数の先行研究があり、いくつかのタイプに分けられることもある。しかし、非人称構文がどれも同じような頻度で用いられているわけではない。朝倉（2002, p. 249）によれば、同氏が収集した 4,308 例の非人称構文のうち、*il y a* が 1,605 例、*il faut* が 1,142 例と、この 2 つで 60% 以上を占める。つまり、フランス語で用いられている様々な非人称構文には使用頻度に大きな差があり、その差が、フランスの絵本においても見られるか分析し、その理由を明らかにすることが本稿の目的である。本稿では、田中（2012）、田中（2013）でコーパスとしたフランス語の絵本にさらに何冊か加えたものをコーパスとし、その中に出てくる非人称構文を、先行研究に基づいて分類し、どのタイプの非人称構文も同じように出てくるわけではないことを示す。これにより、非人称構文の様々なタイプについて分析を深めていくことを目指す。

2. 非人称構文に関する主な先行研究

フランス語の非人称構文を扱った論文は国内外に多数あるが、ここでは主に、非人称構文の分類を行っているものを中心に取り上げる。

朝倉（2002, pp. 249-252）は、A, B, C 型の 3 つに分類する。

A 型 不定詞と単数 3 人称だけ。命令法を欠く。

- ① 非人称動詞としてしか用いられないもの：il faut
- ② 人称動詞がまったく異なった意味で非人称構文をとるもの：il y a / il fait (天候)
- ③ 〈il + 動詞〉の形で気象現象を表わすもの：il pleut, il neige, il gèle, il tonne など。
- ④ 非人称の成句：il s'agit de / il est temps de / il en est de même / il est tôt など。

B型 il + 動詞 + (de) 不定詞；il 動詞 que の型。不定詞、〈que + 節〉が実主語となる [...] 多くは人称動詞としても同義で用いられる。

- ① 自動詞 il est + 形 + de 不定詞 [que] / il semble + 不定詞 [que] / il arrive de 不定詞 [que] / il paraît que / il suffit de 不定詞 [que] / il vaut mieux + 不定詞 [que] / il reste à 不定詞 [que] など
- ② 代名動詞 il s'ensuit [se fait, se peut, se trouve] que など
- ③ 他動詞受動形 il m'est permis [donné] de 不定詞 など
- ④ 他動詞 文学的、古文調 *Il ne m'intéressait pas de les accepter tels qu'ils étaient.* など

C型 〈il + 動詞 + 名詞〉の型。Un accident lui est arrivé. > Il lui est arrivé un accident. のように実主語が名詞の場合。

一方、朝倉氏は、朝倉 (2005, pp. 355-356) では以下のように意味的分類を行っている。

- (1) 出現・突発 apparaître, arriver, entrer, naître, passer, résulter, tomber, survenir, venir, se passer, se produire など
- (2) 存在 être, exister, rester, subsister, se trouver など
- (3) 欠如・消滅 manquer, mourir など

この分類は、普通には人称動詞として用いられながら、(ほぼ) 同じ意味で非人称としても用いられる動詞を分類したものであり、朝倉 (2002) の分類方法とは異なるものである。

木下 (1978) の考察をうけ、春木 (1983) は、Il est arrivé quelque chose de grave 型の非人称構文 (これを「discoursの非人称」と呼ぶ) の制約として、

以下のような点をあげる。

séquence は一般に不定名詞句でなければならない。従って、前方照応的な定冠詞・指示詞の付いた名詞句、所有形容詞の付いた名詞句、固有名詞、総称用法の不定冠詞の付いた名詞句は séquence の位置にはたてない。[...] ただし後方照応的な定冠詞・指示詞の付いた名詞は séquence として可能である。[...] また、rester と manquer に関しては、以上の制約がかなり弱まる。[...] discours の非人称が成立するのは、出現・到着、存在、消失・欠如を表わす動詞に限られる。春木 (1983, pp. 19-20)

この他、非人称構文で用いられる動詞の意味的特徴として、出現・到着、存在、消失・欠如のようなキーワードをあげているものとしては、GOUGENHEIM (1939, p. 239)、ESKENAZI (1968, p. 111) などがある。

3. フランスの絵本におけるフランス語の特徴

ここでは、田中 (2012) および田中 (2013) で明らかになった、フランスの絵本におけるフランス語の特徴について簡単に見ておく。

田中 (2012) では、フランスの絵本における動詞の使い方を中心に分析した。用いられている時制に関しては、予想通り直説法現在形の実例が圧倒的に多かった一方、複合過去形、半過去形は少なく、反対に、フランス語初級者向けの教育現場でまともに扱われることが少ない単純過去形が不規則動詞でさえ何例も見られた。動詞に関係する特筆点としては、月例が低い子向けの絵本においても、使役構文、知覚構文なども用いられ、下にあげる例のように平叙文における主語後置文も多数見つかった。

- (1) Parfois, après l'orage, *apparaît un bel arc-en-ciel*. (BEAUMONT & BELINEAU, *La nature*)
- (2) Dans ce sac, *se tiennent bien serrés tous les grains de riz* que ses parents ont récoltés précieusement dans la plaine à côté du grand fleuve. (BERTRON-MARTIN & SANCHEZ, *Les trois grains de riz*)

複合倒置の例も見つかった。

- (3) Le deuxième ourson, qui était une oursonne, commença, elle aussi, à s'interroger. Peut-être *son papa aimait-il* davantage ses deux frères ? (BRATNET & JERAM, *Vous êtes tous mes préférés*)
- (4) *A peine le grain de riz est-il* dans les mains de Petite Sœur Li, qu'il devient d'un bleu profond et se met à briller. Il se transforme en un énorme saphir. (BERTRON-MARTIN & SANCHEZ, *Les trois grains de riz*)

これらの例では、文頭に *peut-être*、*à peine* など特定の表現があるために主語後置されるなどと説明されることがあるが、主語後置されている理由がどうであれ、このようないわば特殊な構文も珍しくない。学校教育以前に「主語」「動詞」といった文法的な概念を子供達が理解しているとは考えられず、どのように物語が認識されていくのか非常に興味深い。

代名詞の用法については田中 (2013) で述べた。絵本のような子供向けの本であっても、同一の指示対象に対して異なる代名詞が用いられている次のような例

- (5) Elle (= la chenille) se construit une maison — un cocon — et s'y blottit. Deux semaines plus tard, quand elle *le* perce pour *en* sortir... (CARLE, *La chenille qui fait des trous*)

をはじめ、日本人初学者には難解な用法が見られる一方、いわゆる複合関係代名詞 (前置詞 + *qui*, *lequel*, *quoi*) を用いた実例は見つからず、構文として複雑なものは避ける傾向があることが分かった。

4. 分析結果

4.1

今回のコーパスには合計 152 例の非人称構文が見つかったが、それを動詞別に分類すると表 1 のようになる。なお、下表中、実例数は左に見出しとして示した法・時制だけでなく、全ての法・時制、否定文や疑問文を含む。例えば、*il y a* には *il y aura* や *Qu'y a-t-il ... ?* などを含む。

フランスの絵本における非人称構文について

〈表 1〉

	実例数	割合
il y a ...	60	39.5%
il faut ...	38	25.0%
il était une fois ...	8	5.3%
il arrive ...	8	5.3%
il fait beau/chaud etc ...	8	5.3%
il reste ...	6	3.9%
il se passe ...	5	3.3%
il est temps/l'heure de ...	5	3.3%
il pleut	4	2.6%
s'il te (vous) plaît	4	2.6%
il neige	2	1.3%
il existe ...	1	0.6%
il suffit de ...	1	0.6%
il manque ...	1	0.6%
il sort ...	1	0.6%

上位2位までの il y a と il faut を合わせるだけで、全体の 64.5% を占める点の特筆されよう。

この〈表1〉に現れている動詞を、大きく意味によってまとめたものが次の〈表2〉である。

〈表 2〉

	実例数	割合
存在を表す動詞 il y a ..., il était une fois ... il reste ..., il existe ...	75	49.3%
必要を表す動詞 il faut ...	38	25.0%
発生・出現を表す動詞 il arrive ..., il se passe ..., il sort ...	14	9.2%
天候を表す動詞 il fait beau/chaud etc..., il pleut, il neige	14	9.2%
il est temps/l'heure de ...	5	3.3%
s'il te (vous) plaît	4	2.6%
il suffit de ...	1	0.6%
il manque ...	1	0.6%

これを見れば分かるとおり、存在を表す動詞（75例）、必要を表す動詞（38例）、発生・出現を表す動詞（14例）、天候を表す動詞（14例）の4グループのみで全体の93%（141例）を占め、かなり偏っていることが分かる。

朝倉（2002, p. 249）が示す統計では、採集した4,308例のうち il y a 1,605例（37.3%）、il faut 1,142例（26.5%）となっており、この2つを合わせると2,747例（63.8%）となる。この数値は、〈表1〉の後に示した64.5%とほぼ同じである。

4.2 il y a 構文について

ここでは今回、全体の約4割を占めた il y a の実例について分析する。

4.2.1 il y a 構文中の名詞句に付いている限定辞

Il y a を用いた構文では、

- (6) Au dîner, il y a *des épinards*. (D'ALLANCE, *Grosse colère*)
(7) Fini de jouer, il y a *du danger* ! (JOLIBOIS & HEINRICH, *Pas de poules mouillées au poulailler* !)

のように、不定冠詞、部分冠詞が付いた名詞句が用いられている例が多いが、定冠詞や所有形容詞が付いているものも見られた。

- (8) Il y aura *le goûter du bébé*, bien sûr... et après, *ton goûter* avec Manman ! (ASHBE, *Et après, il y aura...*)

これは、定冠詞あるいは所有形容詞が付いている名詞句であっても、先行文脈中に指示対象がなく、談話中に新しい情報として導入される場合には、il y a 構文が用いられるということである。換言すれば、il y a に後続する名詞句に付いている限定辞の種類を見るだけでは、分析として不十分ということになる。

4.2.2 il y a N qui 型構文

今回のコーパスで収集した il y a 構文 60 例において、そのほとんどは、il y a + 名詞句 という極めて単純な構造をしているものが多かったが、3 例だけ、以下のような構造のものがあつた。

- (9) Tout à coup, *il y a quelqu'un qui parle*. (DU BOUCHET, *Coco et les pompiers*)
(10) Mais *il n'y avait là que deux grosses mouches noires, qui faisaient bombance*. (ERLBRUCH & HOLZWARTH, *De la petite taupe qui voulait savoir qui lui avait fait sur la tête*)
(11) Chuuut ! Moins de bruit, les enfants ! *Il y en a qui dorment...* (JOLIBOIS & HEINRICH, *Pas de poules mouillées au poulailler* !)

これらはいわゆる単一判断を表す文である。すでに述べた通り、今回のコーパス全体で複合関係代名詞を使った例はなかったが、qui、que などの関係代名詞は見られた。従って、il y a N qui 型構文の実例が少なかった理由については、偶然の結果に過ぎない可能性があり、さらなる分析が必要である。

4.3 il montait des voyageurs 型の非人称構文について

フランス語の非人称構文は、次例のように

- (12) Un jour vers midi du côté du parc Monceau, sur la plate-forme arrière d'un autobus à peu près complet de la ligne S (aujourd'hui 84), j'aperçus un personnage au cou fort long qui portait un feutre mou entouré d'un galon tressé au lieu de ruban. Cet individu interpella tout à coup son voisin en prétendant que celui-ci faisait exprès de lui marcher sur les pieds chaque fois qu'il *montait* ou *descendait* des voyageurs.

(QUENEAU, *Exercices de style*)

存在・出現などを表す動詞以外の人称動詞が非人称構文で用いられることもあるが、今回のコーパスではこのタイプのものはほとんど見られなかった。この点については、朝倉（2005, pp. 356-357）に言及がある。

- (13) *Il court des enfants.
(14) Vous savez qu'il court des bruits fâcheux sur votre compte ?
(15) *Il brûlait des maisons.
(16) On ne saurait guère plus dire s'il continue à pleuvoir ou s'il brûle un soleil de feu. (ibid.)

これらの例のように朝倉氏は、存在を修辭的に表現する限りにおいて非人称構文が可能であるとする。しかしながらそのような非人称構文はいわば直接的な表現ではなく、また構造的にも難しくなることが多いため、絵本ではあまり見られない形式ではないかと考えられる。

5. 結びにかえて

集計結果から分かるように、フランスの絵本では、一部のタイプの非人称構文しか用いられていないことが分かった。il faut のように本質的に非人称動詞であるものを除けば、先行研究等で言及されている「出現・到着、存在、消失・欠如」といった意味を持つものばかりである。

絵本というのは、言語能力が発達途中にある子供向けの本である。従って、

当然のことながら、構造的に複雑な文は避ける傾向がある。これは、想定されている読者、すなわち子供達の文中における「主語」「動詞」「直接目的語」を分析する能力も発展途上であることを意識してのことであろう。

「出現・到着、存在、消失・欠如」を表す非人称構文が多く見られるのは、新たな人物が登場したり、新たな出来事が発生することによって物語が進んでいくためであり、これもまた当然の結果と言える。

引用・参考文献

A. 絵本のコーパス

- d'ALLANCE, M. (2000) : *Grosse colère*, Ecole des loisirs, Paris.
- AMIOT, K.-M. & RENAUD, C. (2005) : *2 histoires pour mes 2 ans*, Fleurus, Paris.
- ANDREAE, G. & CABBAN, V. (2007) : *Il y a une maison dans ma maman*, adaptation française de Marie-France Floury, Hachette, Paris.
- ASHBE, J. (2000) : *Et après, il y aura...*, Ecole des loisirs, Paris.
- AUBINAIS, M. & BOUR, D. (2005) : *Petit Ours Brun et le bébé*, Bayard jeunesse, Paris.
- AUBINAIS, M. & BOUR, D. (2005) : *Petit Ours Brun se couche*, Bayard jeunesse, Paris.
- AUBINAIS, M. & BOUR, D. (2007) : *Petit Ours Brun dit non*, Bayard jeunesse, Paris.
- Petit Ours Brun il faut ranger, dit maman.
- AUBINAIS, M. & BOUR, D. (2007) : *Petit Ours Brun et le pot*, Bayard jeunesse, Paris.
- AUBINAIS, M. & BOUR, D. (2007) : *Petit Ours Brun et son papa*, Bayard jeunesse, Paris.
- AUBINAIS, M. & BOUR, D. (2008) : *Petit Ours Brun et les œufs de Pâques*, Bayard jeunesse, Paris.
- BARTON, B. (2009) : *La petite poule rousse*, Ecole des loisirs, Paris.
- BATTUT, E. (2008) : *Le secret*, Didier Jeunesse, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (1998) : *Les premiers mots*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2003) : *Ça bouge*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2003) : *Les petits des animaux*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2004) : *Les animaux sauvages*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2004) : *Les couleurs*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2004) : *Les fruits*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2004) : *Les petites bêtes*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2005) : *Le corps*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2005) : *Les légumes*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *La mer*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *L'avion de Gaston*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *La nature*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *La forêt*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *La voiture d'Arthur*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *Le bateau de Léo*, Fleurus, Paris.

- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2006) : *Le camion de Léon*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2007) : *La moto de Marco*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2007) : *Le train de Bastien*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2008) : *Le bus de Marius*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2008) : *Le tracteur de Peter*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2009) : *La tractopelle d'Axel*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2009) : *Le bain*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2009) : *Le camion-poubelle de Marcel*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2010) : *La grue de Lulu*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2010) : *L'ambulance de Maxence*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2011) : *La Formule 1 de Gabin*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2011) : *Le gros camion de Simon*, Fleurus, Paris.
- BEAUMONT, E. & BELINEAU, N. (2011) : *Mila joue à la fée*, Fleurus, Paris.
- BELINEAU, N. (2001) : *Les syllabes no.1*, Fleurus, Paris.
- BELINEAU, N. (2001) : *Les syllabes no.2*, Fleurus, Paris.
- BELINEAU, N. & MICHELET, S. (2002) : *La ferme*, Fleurus, Paris.
- BELINEAU, N. & MICHELET, S. (2002) : *L'alphabet*, Fleurus, Paris.
- BELINEAU, N. & MICHELET, S. (2002) : *Les petites bêtes*, Fleurus, Paris.
- BELLIER, S. & LEDESMA, S. (2002) : *La nuit, ça sert à quoi ?*, Fleurus, Paris.
- BELLIER, S. & DELVAUX, C. (2002) : *Le soleil, ça sert à quoi ?*, Fleurus, Paris.
- BERTRON-MARTIN, A. & SANCHEZ, V. (2005) : *Les trois grains de riz*, Flammarion, Paris.
- BIONDI, G., BOLIN, D. & CARBONEILL, B. (2010) : *Histoires d'animaux de la jungle*, Ecole des loisirs, Paris.
- BIONDI, G., BOLIN, D. & CARBONEILL, B. (2010) : *Histoires de doudous*, Ecole des loisirs, Paris.
- BISINSKI, P. & SONDEERS, A. (2005) : *Pop mange de toutes les couleurs*, Ecole des loisirs, Paris.
- BISINSKI, P. & SONDEERS, A. (2006) : *Toutes les maisons*, Ecole des loisirs, Paris.
- DU BOUCHET, P. (2009) : *Coco et les pompiers*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- DU BOUCHET, P. (2011) : *Bonjour*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- BRATNET, S. & JERAM, A. (2005) : *Vous êtes tous mes préférés*, traduit en français par Claude Lager, Ecole des loisirs, Paris.
- BRAVI, S. (2004) : *Le livre des bruits*, Ecole des loisirs, Paris.
- CARLE, E. (2009) : *La chenille qui fait des trous*, traduit en français par Laurence Bourguignon, Mijade, Namur.
- CHOUX, N. (2009) : *Mes animaux des mers à toucher*, Editions Milan, Toulouse.
- CLEMENT, C. (2008) : *Léo et Popi sur le pot*, Bayard Editions, Montrouge.
- COURTIN, Th. (1997) : *Tchoupi est en colère*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1997) : *Tchoupi fait du vélo*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1997) : *Tchoupi jardine*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1997) : *Tchoupi ne veut pas prêter*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1998) : *Tchoupi a une petite sœur*, Editions Nathan, Paris.

- COURTIN, Th. (1998) : *Tchoupi rentre à l'école*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1999) : *Tchoupi fête son anniversaire*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1999) : *Tchoupi part en pique-nique*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (1999) : *Tchoupi se perd au supermarché*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2002) : *Tchoupi veut regarder la télé*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2003) : *Tchoupi à la plage*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2003) : *Tchoupi fait un tour de manège*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2003) : *Tchoupi s'occupe bien de sa petite sœur*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2004) : *Tchoupi fait la sieste*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2005) : *Tchoupi va sur le pot*, Editions Nathan, Paris.
- COURTIN, Th. (2005) : *Tchoupi au zoo*, Editions Nathan, Paris.
- DANKERLEROUX (2009) : *Le vilain petit canard*, Editions Milan, Toulouse.
- DENEUX, X. (2006) : *Les trois petits cochons*, Editions Milan, Toulouse.
- DENEUX, X. (2009) : *Il était un petit navire*, Editions Milan, Toulouse.
- DISNEY (2009) : *Winnie l'Ourson, Maman je t'aime*, Hachette, Paris.
- DUFRESNE, D. (2003) : *Le pinceau magique*, Editions Flammarion, Paris.
- ELLWAND, D. (2009) : *Beaucoup de beaux bébés*, traduit en français par Claude Lager, Ecole des loisirs, Paris.
- EMBERLEY, Ed. (1996) : *Va-t'en, Grand Monstre Vert !*, traduit en français par Elisabeth Duval, Ecole des loisirs, Paris.
- ERLBRUCH, W. & HOLZWARH, W. (2004) : *De la petite taupe qui voulait savoir qui lui avait fait sur la tête*, traduit en français par Rozenn Destouches et Gérard Moncomble, Editions Milan, Toulouse.
- GAY-PARA, P. & PRIGENT, A. (2008) : *Quel radis dis donc !*, Didier Jeunesse, Paris.
- VAN GENECHTEN, G. (2009) : *Qu'y a-t-il dans ta couche ?*, Albin Michel Jeunesse, Paris.
- GLIORI, D. (2007) : *Je t'aimerais toujours, quoi qu'il arrive...*, traduit en français par Marie-France Flourey, Hachette, Paris.
- GUETTIER, B. (2003) : *Je dors !*, Petit POL, Paris.
- GUTMAN, A. & HALLENSLEBEN, G. (2006) : *Les chiffres*, Hachette Livre, Paris.
- GUTMAN, A. & HALLENSLEBEN, G. (2006) : *Les contraires*, Hachette Livre, Paris.
- GUTMAN, A. & HALLENSLEBEN, G. (2006) : *Les couleurs*, Hachette Livre, Paris.
- GUTMAN, A. & HALLENSLEBEN, G. (2006) : *Les formes*, Hachette Livre, Paris.
- ICHIKAWA, S. (2001) : *Baobonbon*, Ecole des loisirs, Paris.
- IVANOVITCH-LAIR, A. & GAUTIER, V. (2007) : *Le petit éléphant têtu*, Flammarion, Paris.
- JOLIBOIS, C. & HEINRICH, C. (2011) : *Pas de poules mouillées au poulailler !*, Pocket Jeunesse, Paris.
- KRINGS, A. (2008) : *Béa Bébé Abeille*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- KRINGS, A. (2008) : *Estelle Bébé Coccinelle*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- KRINGS, A. (2008) : *Odilon Bébé Bourdon*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- KRINGS, A. (2008) : *Pierrot Bébé Escargot*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- KRINGS, A. (2008) : *Philou Bébé Pou*, Gallimard Jeunesse, Paris.

- KRINGS, A. (2008) : *Simon Bébé Papillon*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- LALLEMAND, O. & THUILLIER, E. (2009) : *Le loup qui voulait changer de couleur*, Auzou, Paris.
- LIONI, L. (1970) : *Petit-Bleu et Petit-Jaune*, Ecole des loisirs, Paris.
- LOUFANE (2002) : *Pou-poule !*, Kaléidoscope, Paris.
- McKEE, D. (1994) : *Les couleurs d'Elmer*, traduit en français par Elisabeth Duval, Kaléidoscope, Paris
- PFISTER, M. (2007) : *Arc-en-ciel, le plus beau poisson des océans*, traduit en français par Agnès Inhauser, Editions NordSud, Paris.
- PLACE, M.-H. & FONTAINE-RQUIER, C. (2010) *Balthazar s'habille*, Hatier Jeunesse, Paris.
- POTTER, B. (2007) : *Le petit livre pop-up de Pierre Lapin et ses amis*, Gallimard Jeunesse, Paris.
- RASCAL & JOOS, L. (1993) : *Le voyage d'Oregon*, Ecole des loisirs, Paris.
- RASCAL (2002) : *Boucle d'or & les trois ours*, Ecole des loisirs, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2005) : *La Cuisine*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2005) : *La Ferme*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2006) : *La mer*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2006) : *Le jardin*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2008) : *La musique*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2012) : *Barbapapa sur Mars*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2012) : *La maison de Barbapapa*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2012) : *L'arche de Barbapapa*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2012) : *Le Grand Cirque de Barbapapa*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2012) : *Les vacances de Barbapapa*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2012) : *Le voyage de Barbapapa*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TISON, A. & TAYLOR, T. (2009) : *L'orchestre*, Les livres du Dragon d'Or, Paris.
- TURDERA, C. (2010) : *Une poule sur un mur*, Editions Milan, Toulouse.
- TURDERA, C. (2011) : *Pirouette cacahuète*, Editions Milan, Toulouse.
- VANETTI, G. (2002) : *Un petit trou dans une pomme*, Nathan, Paris.

B. 研究論文の類

- 朝倉 季雄 著、木下 光一 校閲 (2002) : 『新フランス文法事典』、白水社、東京。
- 朝倉 季雄 (2005) : 『フランス文法集成』、白水社、東京。
- ESKENAZI, A. (1968) : « Note sur les constructions impersonnelles du français contemporain », *Revue Romane* 3.
- GOUGHENHEIM, G (1939) : *Système grammatical de la langue française*, Editions d'Artrey, Paris.
- 木下 光一 (1978) : 「フランス語の非人称ヴァリエントと発話の意味構造」、『フランス語学研究』第12号、獨協大学大学院
- 田中 善英 (2006) : 『フランス語における複合時制の文法』、早美出版社

フランスの絵本における非人称構文について

- 田中 善英 (2012) : 「動詞の用法から見る絵本の中のフランス語の特徴」、『フランス文化研究』第 43 号、獨協大学外国語学部
- 田中 善英 (2013) : 「名詞・代名詞の用法から見る絵本の中のフランス語の特徴」、『フランス文化研究』第 44 号、獨協大学外国語学部
- 東郷 雄二・大木 充 (1987) : 「非人称構文の談話機能について——倒置構文との比較をめぐって」、『フランス語学研究』第 21 号、日本フランス語学研究会
- 春木 仁孝 (1983) : 「フランス語の非人称構文——副詞的要素の機能と énonciation」、『フランス語学研究』第 17 号、日本フランス語学研究会